

2 セットアップ

本体の設置からお使いなれる状態にするまでの手順について説明します。また、装置を再セットアップする場合もここに記載している説明を参照してください。

設置と接続

本体の設置と接続について説明します。

設　置

本装置は卓上またはEIA規格に適合したラックに設置して使用します。

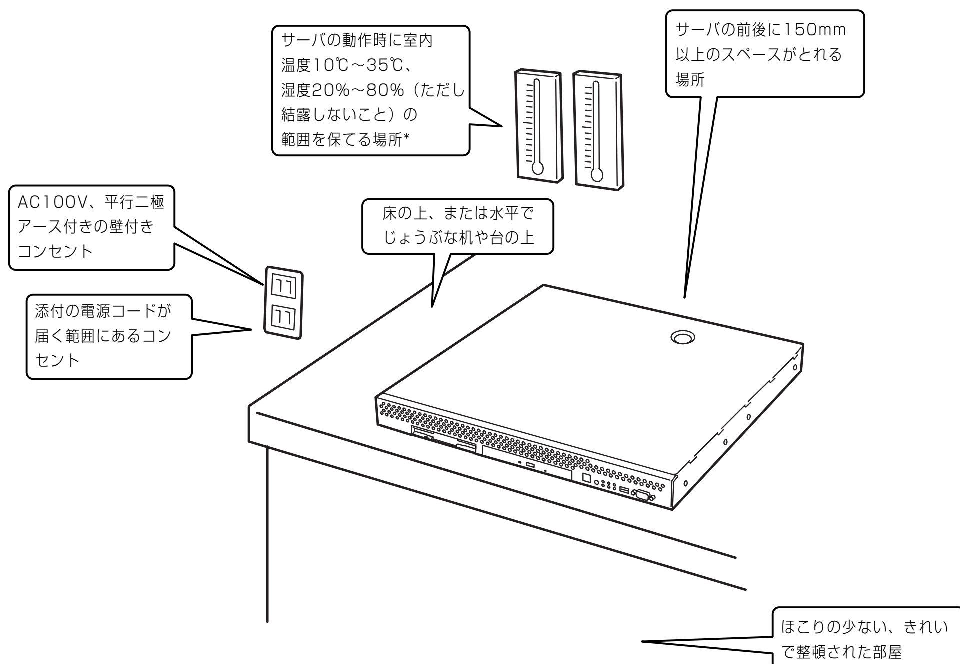
卓上への設置

⚠ 注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **指定以外の場所に設置しない**

本体の設置にふさわしい場所は次のとおりです。



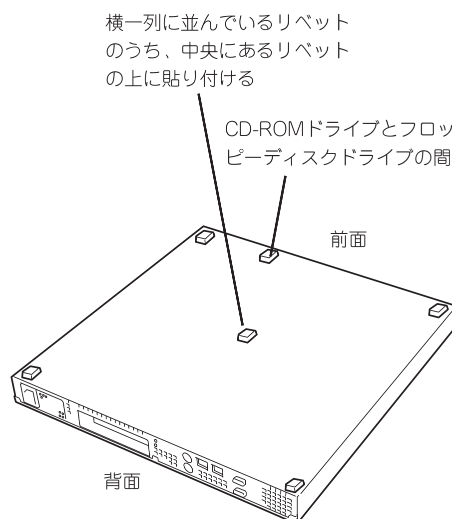
* 室内温度15℃～25℃の範囲を保てる場所での使用をお勧めします。

次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所に本装置を設置すると、誤動作の原因となります。

- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 電源コードまたはインタフェースケーブルを足で踏んだり、引っ掛けたりするおそれのある場所。
- 強い磁界を発生させるもの(テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど)の近く(やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください)。
- 本装置の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近くには設置しないでください。(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください。)

卓上に置く場合は、本体底面に添付のゴム足を貼り付けてください。
設置場所が決まったら、本体の底面をしっかりと持って、設置場所にゆっくりと静かに置いてください。本装置は3台まで積み重ねて置くことができます。

本体の上には質量8kg以下の液晶ディスプレイを置くことができます。



セットアップ

ラックへの設置

ラックの設置については、ラックに添付の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。
ラックの設置作業は保守サービス会社に依頼することもできます。

⚠警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **指定以外の場所で使用しない**
- **アース線をガス管につながない**

⚠注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **一人で搬送・設置をしない**
- **一人で部品の取り付けをしない**
- **荷重が集中してしまうような設置はしない**
- **ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない**
- **複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない**
- **定格電源を超える配線をしない**

次に示す条件に当てはまるような場所には、ラックを設置しないでください。これらの場所にラックを設置したり、ラックに本装置を搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 装置をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する装置の総質量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施さないと設置できない場所。
- 床におうとつや傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所（暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く）。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。

● 強い磁界を発生させるもの(テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど)の近く(やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください)。

● 本装置の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。

● 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近く(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください)。

本体をラックに取り付ける手順を以下に示します。取り外し手順については、取り付け手順の後で説明しています。
ここでは、NEC製のラックまたは他社製ラックへの取り付け手順について説明します。
NEC製のラックのうち、N8540-28/29/38に取り付ける場合は、オプションの「N8143-35 ラック取り付け用ブラケット」が必要です。取り付け手順については、N8143-35 ラック取り付け用ブラケットに添付の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。

⚠警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **規格外のラックで使用しない**
- **指定以外の場所で使用しない**

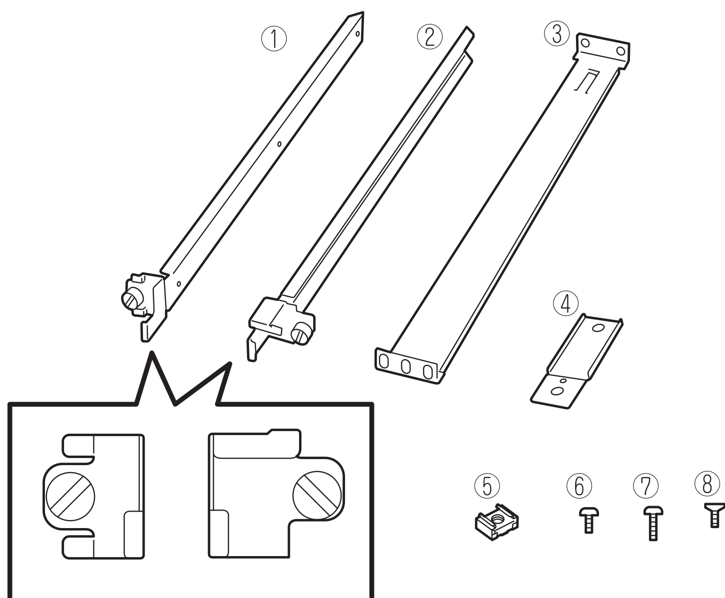
⚠注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **落下注意**
- **装置を引き出した状態にしない**
- **カバーを外したまま取り付けない**
- **指を挟まない**

取り付け部品の確認

ラックへ取り付けるために次の部品があることを確認してください。



項番	名称	数量	備考
①	マウントブラケット(L)	1	「L」と刻印されている。
②	マウントブラケット(R)	1	「R」と刻印されている。
③	サポートブラケット	2	
④	エクステンションブラケット	2	
⑤	コアナット	8	
⑥	ネジA	4	M3ネジ、ネジ部の長さ: 5mm、マウントブラケット(L)/(R)を装置に固定する際に使用する。
⑦	ネジB	6	M5ネジ、ネジ部の長さ: 10mm、サポートブラケットを固定する際に使用する。
⑧	ネジC	2	皿ネジ、エクステンションブラケットを固定する際に使用する。

必要な工具

ラックへ取り付けるために必要な工具はプラスドライバとマイナスドライバです。

取り付け手順

次の手順で本体をラックに取り付けます。



NEC製のラックのうち、N8540-28/29/38への取り付けにはN8143-35 ラック取り付け用ブラケットが必要となります。また、取り付け方法についてはN8143-35 ラック取り付け用ブラケットに添付の説明書をご覧ください。

● マウントブラケットの取り付け

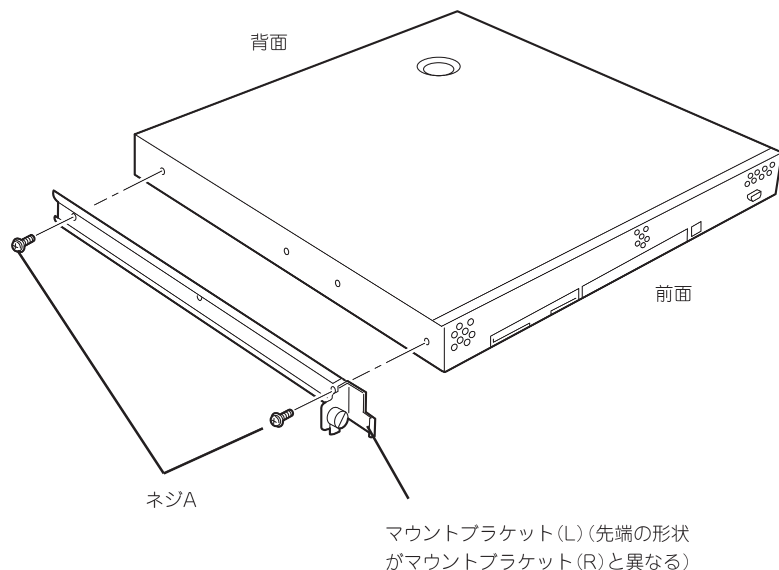
1. マウントブラケットのネジ穴と本体側面のネジ穴を合わせる。



ブラケットの向きを確認して取り付けてください。本体左側面にマウントブラケット(L)、右側面にマウントブラケット(R)を取り付けます。それぞれのブラケットに「L」、「R」と刻印があります。

2. マウントブラケットをネジA(2本)で本体に固定する。

3. もう一方の側面にマウントブラケットを手順1～2と同じ手順で取り付ける。

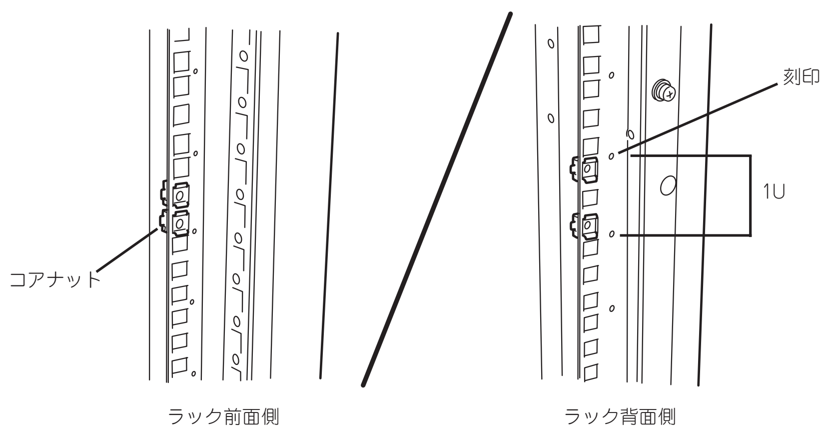


● コアナットの取り付け

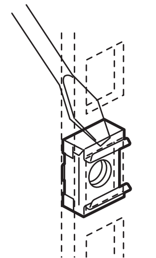
サポートブラケットを固定する位置に本装置に添付のコアナットを取り付けます。コアナットはラックの前面(左右とも)に各2個、背面(左右とも)に各2個の合計8個取り付けます。

コアナットは「1U(ラックでの高さを表す単位)」の中に2個取り付けてください(NEC製のラックでは、1U単位に丸い刻印があります)。1Uあたり、スロット(角穴)が3つあります。3つのスロットのうち、ラック前面側では下の2つのスロットに、ラック背面側では上下のスロットにコアナットを取り付けます。

コアナットはラックの内側から取り付けます。ラックの前面に取り付けたコアナットは、上側が本体のセットスクリューの受けとなります。下側はサポートブラケット前面の固定に使用します。背面のコアナットはサポートブラケット背面の固定用として使われます。



コアナットは下側のクリップをラックの四角穴に引っかけてからマイナスドライバなどで上側のクリップを穴に差し込みます。

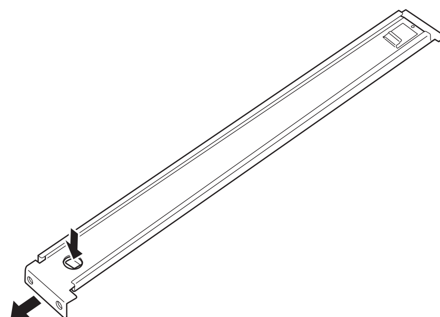




ラックの前後、左右に取り付けたコアナットの高さが同じであることを確認してください。

● サポートブラケットの取り付け

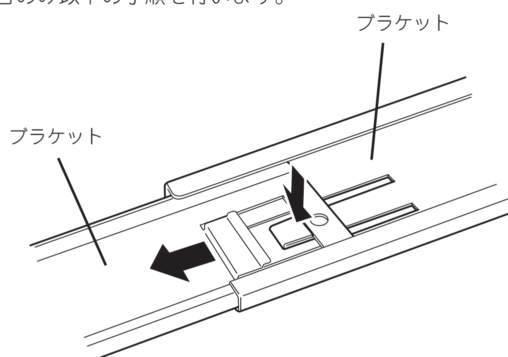
1. サポートブラケットのロックを解除して引き延ばす。



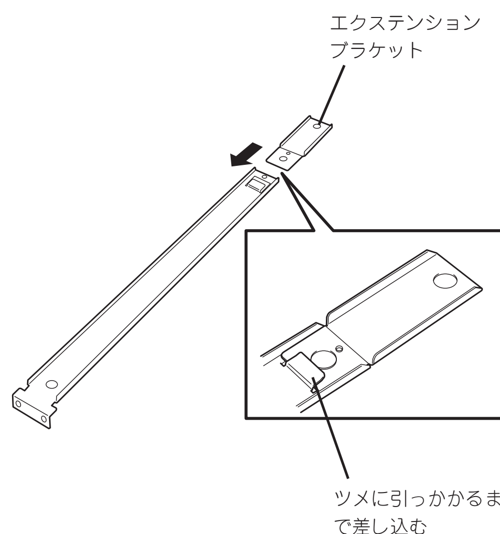
2. <ラックの前後の奥行きが700mm以上の場合のみ>

   ラックの前後の奥行きが700mm以上の場合のみ以下の手順を行います。

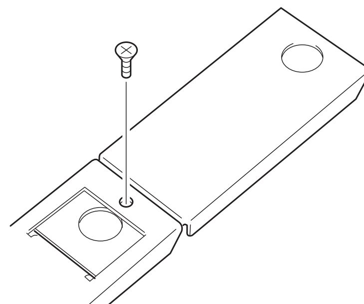
   ① サポートブラケットのロックを解除してブラケットを分解する。



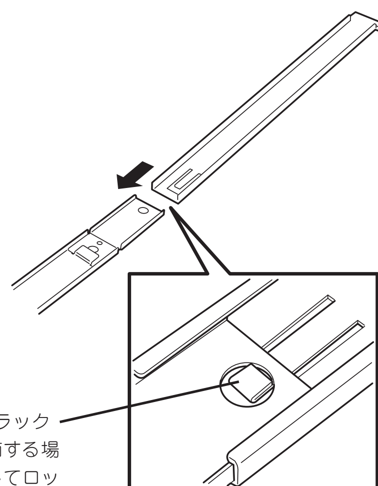
   ② エクステンションブラケットを一方のブラケットに差し込む。



③ エクステンションブラケットをネジC(1本)で固定する。



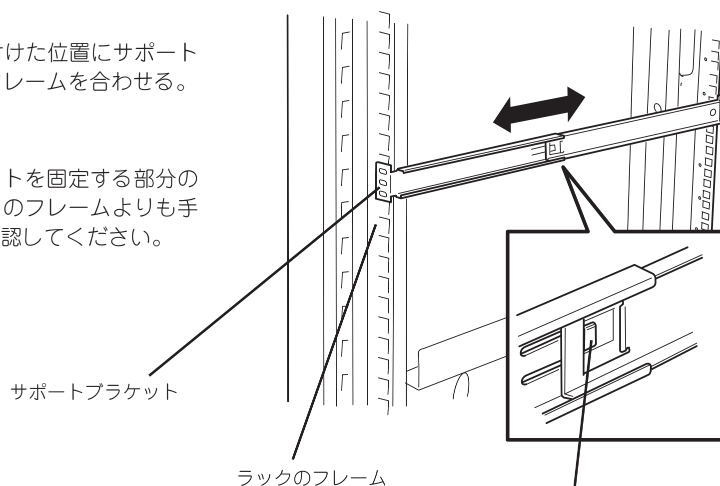
④ もう一方のブラケットをエクステンションブラケットに差し込む。



3. コアナットを取り付けた位置にサポートブラケット前後のフレームを合わせる。



サポートブラケットを固定する部分のフレームがラックのフレームよりも手前にあることを確認してください。



4. サポートブラケットを支えながら、ネジB(3本)でラックに固定する。



サポートブラケットが水平に取り付けられていることを確認してください。

本体のセットスクリューの受けに使用する

ネジB

ラック前面側

ラック背面側



サポートブラケットのネジ穴は多少上下にずらすことができる程度のクリアランスを持っています。初めて取り付ける場合は、コアナットのネジ穴がサポートブラケットのネジ穴の中央に位置するようにしてから固定してください。もし、装置を取り付けたときに装置の上下に搭載している装置にぶつかる場合は、いったん本装置を取り出してサポートブラケットの固定位置を調整してください(ぶつかる装置の取り付け位置も調整する必要がある場合もあります)。

5. もう一方のサポートブラケットを手順1〜4と同じ手順で取り付ける。



すでに取り付けているサポートブラケットと同じ高さに取り付けていることを確認してください。

● 本体の取り付け

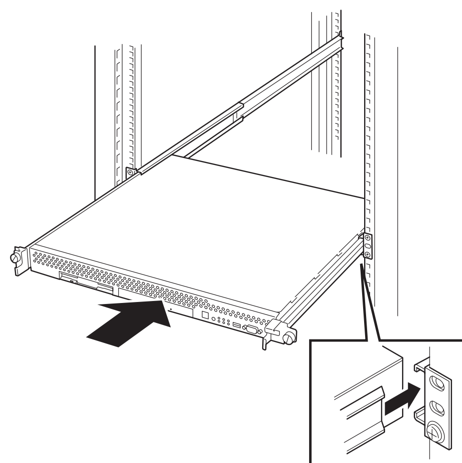
取り付けは1人でもできますが、なるべく複数名で行うことをお勧めします。

1. 本体前面が手前になるようにして持つ。

2. 本体側面に取り付けたマウントブラケットをサポートブラケットに差し込みながらラックへ押し込む。

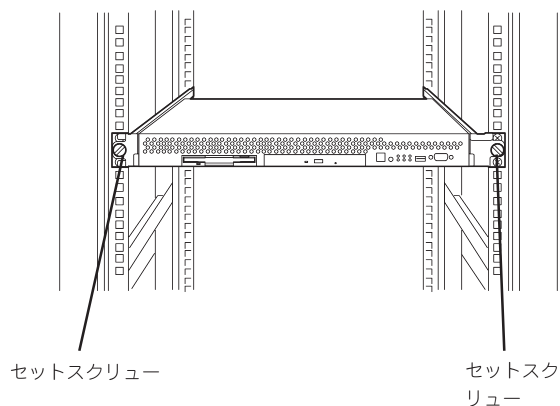


装置の上下に搭載している装置にぶつかる場合は、いったん本装置を取り出してサポートブラケットの固定位置を調整してください。(ぶつかる装置の取り付け位置も調整する必要がある場合もあります)。

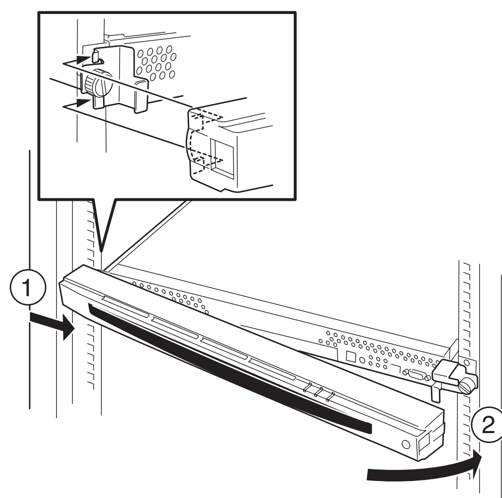


● 本体の固定

1. 本体をラックへ完全に押し込む。

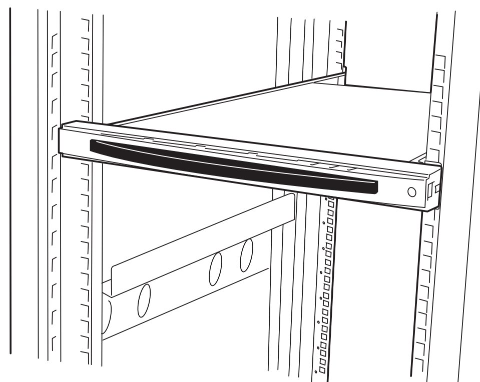


2. 前面の左右にあるセットスクリューでラックに固定する。



3. フロントベゼルを取り付ける。

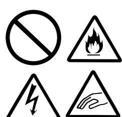
以上で完了です。



取り外し手順

次の手順で本体をラックから取り外します。取り外しは1人でもできますが、なるべく複数名で行うことをお勧めします。

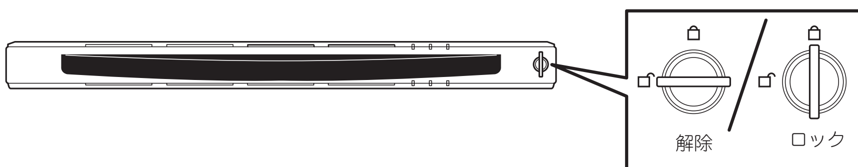
⚠注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

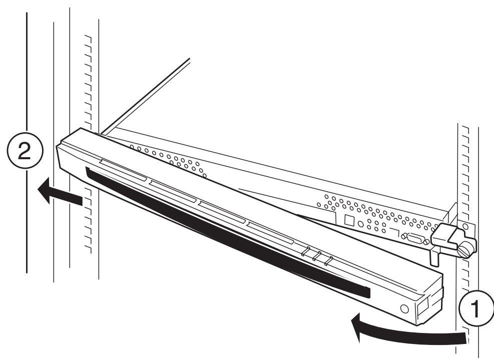
- **指を挟まない**
- **ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない**
- **落下注意**
- **装置を引き出した状態にしない**
- **複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない**
- **動作中に装置をラックから引き出さない**

1. フロントベゼルのロックを解除する。



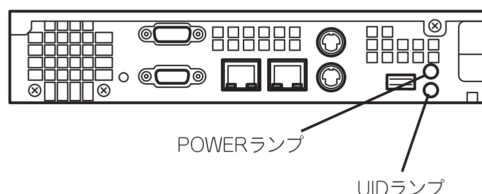
2. フロントベゼルを取り外す。

3. 本体の電源をOFF（POWERランプ消灯）にする。



4. 本体前面にあるUIDスイッチを押して、UIDランプを点灯させる。

5. 本体に接続しているすべてのケーブル、および電源コードを取り外し、UIDランプが消灯していることを確認する。



チェック

本体背面のケーブルや電源コードを取り外す前にUIDランプで取り外そうとしている装置であることを確認してください。

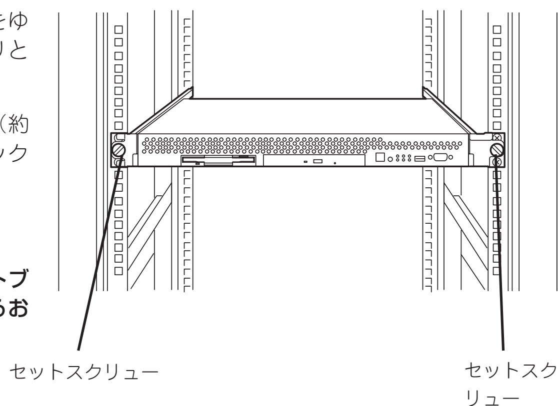
セットアップ

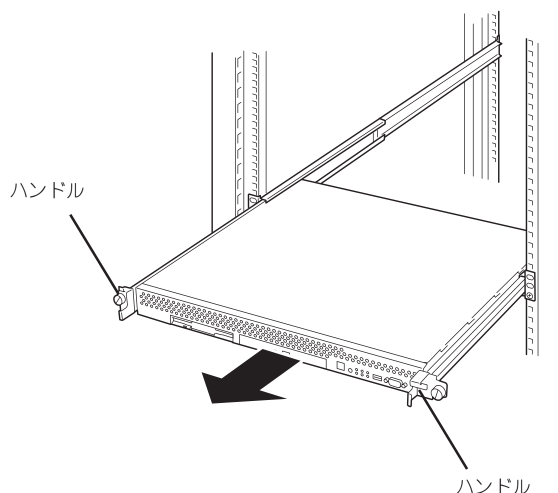
6. 前面の左右にあるセットスクリューをゆるめて、ハンドルを持ってゆっくりとラックから引き出す。

本体の両端をしっかりと持てる位置(約15cmほど)までゆっくりと静かにラックから引き出してください。

重要

装置を引き出しすぎると、サポートブラケットから装置が外れて落下するおそれがあります。





7. 本体の左右底面をしっかりと持って取り外し、じょうぶで平らな机の上に置く。

重要

装置を引き出したまま放置しないでください。必ずラックから取り外してください。

ラックの機構部品も取り外す場合は、「取り付け手順」を参照して取り外してください。

接　続

本体をネットワークに接続します。
ネットワークケーブルを本体に接続してから添付の電源コードを本体に接続し、電源プラグをコンセントにつなげます。



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- ぬれた手で電源プラグを持たない
- アース線をガス管につながない



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない
- プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
- 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

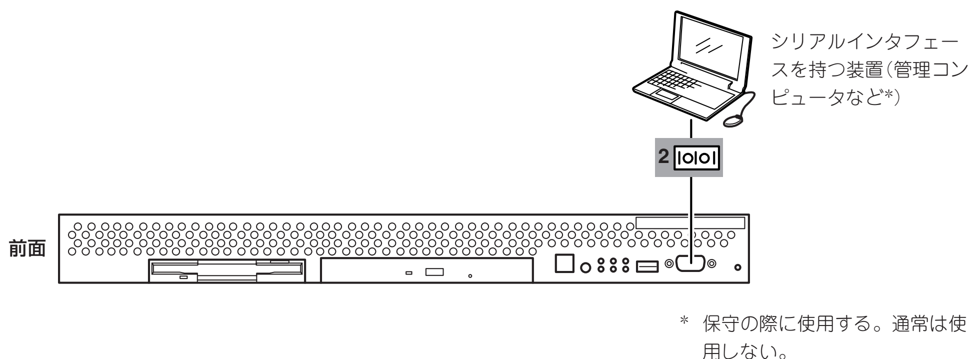


- 本体および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- NEC以外(サードパーティ)の周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が本装置で使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本装置で使用できないものがあります。

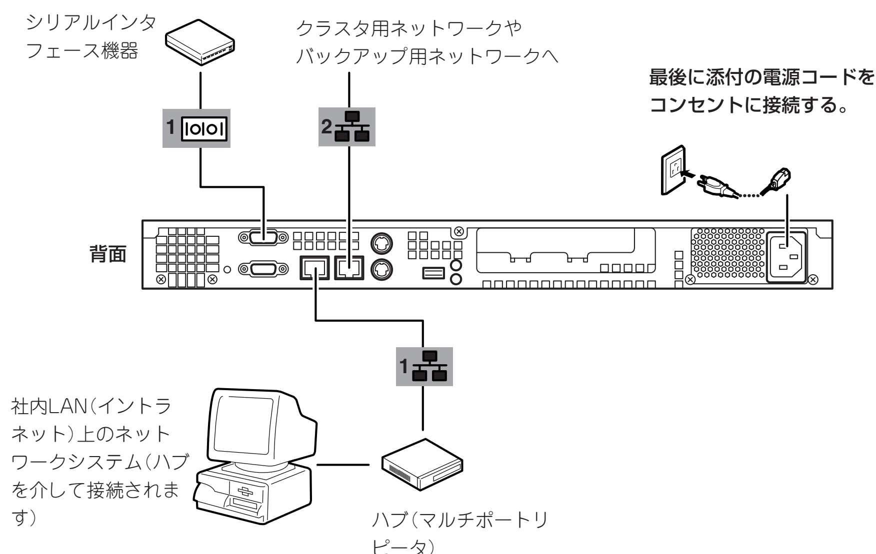


無停電電源装置(UPS)を導入し、電源制御システムの構築を検討されている場合は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください

セットアップ



* 保守の際に使用する。通常は使用しない。



社内LAN(イントラネット)上のネットワークシステム(ハブを介して接続されます)

ハブ(マルチポートリピータ)



ネットワークに接続する前に次の点について確認してください。

- LANのネットワーク設定

  本装置に割り当てるIPアドレスやネットワーク環境について確認してください。

- ネットワーク機器

  必要なルータ、ハブ、ケーブルが準備されていることを確認してください。また ISPとの接続に用いるルータもしくはダイヤルアップルータに、あらかじめインターネット接続に必要な設定を行い設置しておいてください (イントラネットで用いる場合は必要ないこともあります) 。

- クライアントPC

  本装置とは別に、Windows 2000、Windows NT、またはWindows Me/98/95のいずれかのWindows OSが利用可能なクライアントマシン(PC)を用意してください。最低限の初期設定を行うための「初期導入設定ツール」の実行に利用します。

以上で本体の電源をONにできる状態になりました。購入後、初めて本体の電源をONにする場合は、この後の「初めてのセットアップ」をご覧ください。再セットアップの場合は、60ページの「再セットアップ」を参照してください。

初めてのセットアップ

購入後、初めてシステムをセットアップする時の手順について順を追って説明します。

初期導入設定用ディスクの作成

「初期導入設定用ディスク」は装置をインターネットWeb/メールサーバとして導入するために最低限必要となる設定情報が保存されたセットアップ用のフロッピーディスクです。

「初期導入設定用ディスク」は、添付の初期導入設定用ディスクにある「初期導入設定ツール」を使って作成します。初期導入設定ツールは、Windows 2000、Windows NT、またはWindows Me/98/95で動作するコンピュータで動作します。

初期導入設定プログラムの実行と操作の流れ

Windowsマシンを起動して、次の手順に従って初期導入設定用ディスクを作成します。

1. Windowsマシンのフロッピーディスクドライブに添付の初期導入設定用ディスクをセットする。
2. フロッピーディスクドライブ内の「初期導入設定ツール(startupConf.exe)」をエクスプローラなどから実行する。

   [Linuxビルドアップサーバ初期導入設定ツール]が起動します。プログラムは、ウィザード形式となっており、各ページで設定に必要事項を入力して進んでいきます。

   必須情報が入力されていない場合や入力情報に誤りがある場合は、次へ進むときに警告メッセージが表示されます。項目を正しく入力し直してください。入力事項については、この後の説明を参照してください。

   すべての項目の入力が完了すると、フロッピーディスクに設定情報を書き込んで終了します。
3. 初期導入設定用ディスクをフロッピーディスクドライブから取り出し、「システムのセットアップ」に進む。

   初期導入設定用ディスクは再セットアップの際にも使用します。大切に保管してください。

各入力項目の設定

[Linuxビルドアップサーバ初期導入設定ツール]で入力する項目について説明します。

パスワード設定

システムのセットアップ完了後、管理コンピュータからWebブラウザを介して、システムにログインする際のパスワードを設定します。この画面にある項目はすべて入力しないといけません。
パスワードは推測されにくく覚えやすいものを用意してください。

チェック
パスワードは画面に表示されません。タイプミスをしないよう注意してください。

Linuxビルドアップサーバ初期導入設定ツール
ファイル(F)　ヘルプ(H)
システム管理者(admin)のパスワードの設定を行います。
既にサーバにパスワードを設定してある場合は、「設定済みパスワード」の項目に、現在のパスワードを入力してください。初めて設定を行う場合、添付用紙に記載してあるパスワードを入力してください。
設定済みパスワード　*********
パスワード　******
パスワード再入力　******
項目を入力したら「次へ(N) >」を押してください
< 戻る(B)　次へ(N) >　キャンセル

設定済みパスワード

初めて設定する場合は、同梱の別紙「rootパスワード」に記載されたパスワードを入力してください。以前に設定を行っている場合は、設定されているパスワードを入力してください。

パスワード

設定するパスワードを入力してください。ここで入力したパスワードは、管理者(admin)でログインする場合に必要となります。パスワードを忘れたり、不正に利用されたりしないように、パスワードの管理は厳重に行ってください。

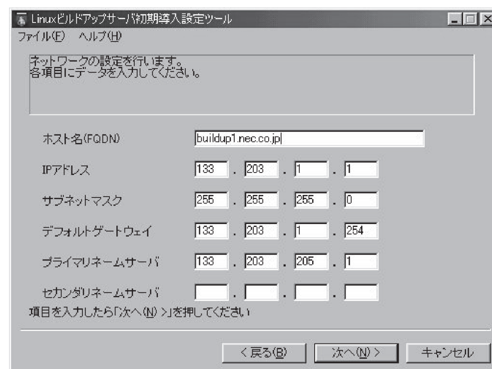
なお、パスワードを変更したくない場合は、既存パスワードと同一のパスワードを新パスワードとして設定してください。

パスワード再入力

パスワードの確認用です。パスワードと同一のものを入力してください。

ネットワーク設定　～LANポート1(標準LAN)用～

LANポート1(標準LAN)のネットワーク設定をします。[セカンダリネームサーバ]以外は必ず入力してください。



ホスト名(FQDN)

ホスト名を入力してください。入力の際には、FQDNの形式 (マシン名.ドメイン名)の形式で入力してください。また、英字はすべて小文字で指定してください。大文字は使用できません。

IPアドレス

1枚目のNIC(LANポート1(標準LAN))に割り振るIPアドレスを指定してください。

サブネットマスク

1枚目のNIC(LANポート1(標準LAN))に割り振るサブネットマスクを指定します。

ディフォルトゲートウェイ

ディフォルトゲートウェイのIPアドレスを指定します。

プライマリネームサーバ

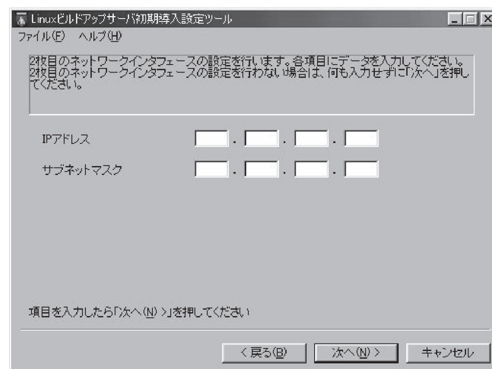
プライマリネームサーバのIPアドレスを指定します。

セカンダリネームサーバ

セカンダリネームサーバが存在する場合は、そのIPアドレスを指定します。

ネットワーク設定　～LANポート2(拡張LAN)用～

LANポート2(拡張LAN)のネットワーク設定をします。使用しない場合は、設定する必要はありません。



IPアドレス

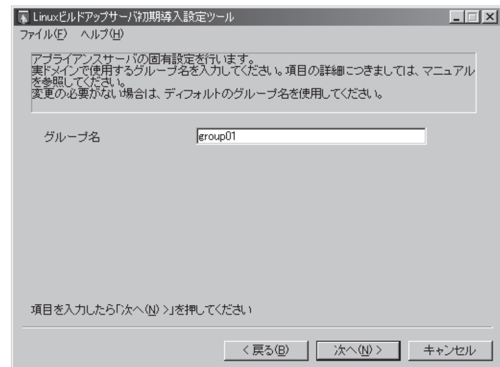
2枚目のNIC(LANポート2(拡張LAN))に割り振るIPアドレスを指定してください。

サブネットマスク

2枚目のNIC(LANポート2(拡張LAN))に割り振るサブネットマスクを指定します。

グループ設定

実ドメインのグループ名を指定してください。実ドメインユーザーはこのグループの所属になります。全体で15文字以内、1文字目は英字、2文字目以降は英数字と「-(ハイフン)」で構成される任意の文字列を指定できますが、システムであらかじめ予約されている以下の文字列は指定できません。また、英字はすべて小文字で指定してください。大文字は使用できません。

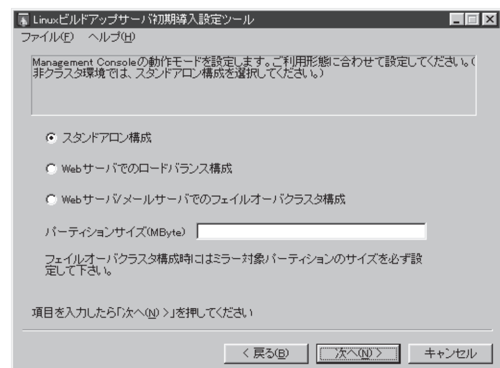


<指定できない文字列>

root、bin、daemon、sys、adm、tty、disk、lp、mem、kmem、wheel、mail、news、uucp、man、utmp、games、floppy、slocate、gopher、dip、gdm、ftp、nobody、users、wnn、smbguest、public、www、named、console、postgres、smb、wbmc、admin、fml

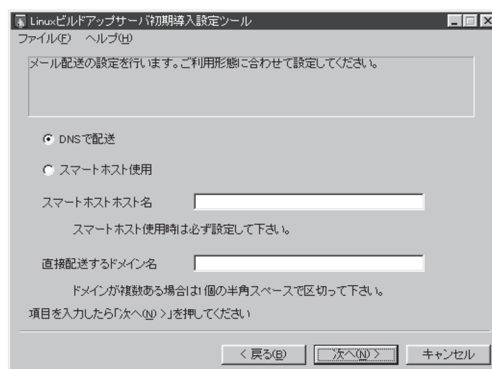
システム構成条件の設定

Management Consoleの動作モードを設定します。
ロードバランスクラスタ構成でセットアップする場合は、[Webサーバでのロードバランス構成]を選択してください。
フェイルオーバクラスタ構成でセットアップする場合は、[Webサーバ/メールサーバでのフェイルオーバクラスタ構成]を選択してください。この場合、ミラー対象のパーティションのサイズを必ず指定してください。通常は[スタンドアロン構成]のままで構いません。



メール配送の設定

メール配送の設定をします。ご利用形態に合わせて設定してください。
DNSで配送する場合は、[DNSで配送]を選択してください。スマートホストを使用する場合は、[スマートホスト使用]を選択してください。この場合、スマートホストホスト名を必ず設定してください。必要に応じて直接配送するドメイン名を指定してください。ドメインが複数ある場合は、それぞれのドメインを1つの半角スペースで区切って入力してください。





スマートホストとは？

FireWallが設置されたイントラネット内にメールサーバを設置する場合などは、すべてのメールを特定のメールサーバを介して配送する必要があります。そのサーバのことを「スマートホスト」と呼びます。スマートホストを使用する場合でも、FireWallの内側で、イントラネット用の DNSが設置されており、DNSによる配送が可能な場合は、「直接配送するドメイン名」にイントラネットのドメイン名を入力することでFireWall内に関しては、スマートホストを介さずに配送することができます。

なお、FireWallのDMZ(非武装地帯)上のメールサーバのように、特定のドメインに対する配送ホストをDNSを使用せずに静的に決定する必要がある場合は、セットアップ完了後、Management Consoleを使用し、メールサーバの設定の「静的配送の設定」により設定します。

システムのセットアップ

初期導入設定ツールで作成した「初期導入設定用ディスク」を使用して、短時間でセットアップできます。

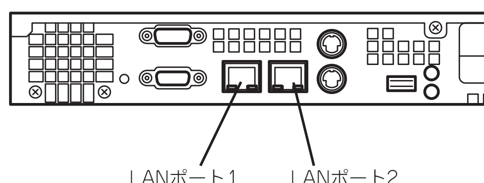
セットアップの手順

以下手順でセットアップをします。

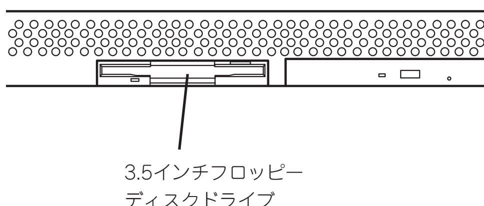


正しくセットアップできないときは、次ページ、および222ページを参照してください。

1. 本体背面のLANポート1とLANポート2（使用する場合）にネットワークケーブルが接続されていることを確認する。



2. 前述の「初期導入設定用ディスクの作成」で作成した初期導入設定用ディスクを3.5インチフロッピーディスクドライブにセットする。

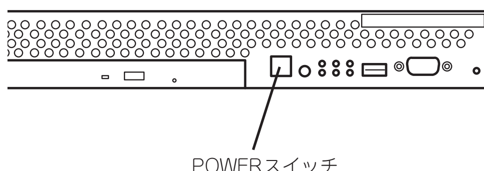


3. POWERスイッチを押す。

   POWERランプが点灯します。

   しばらくすると、初期導入設定用ディスクから設定情報を読み取り、自動的にセットアップを進めます。2〜3分ほどでセットアップが完了します。

   3章を参照してシステムの状態確認や設定変更を行ってください。



重要

セットアップの完了が確認できたらセットした初期導入設定用ディスクをフロッピーディスクドライブから取り出して大切に保管してください。再セットアップの時に再利用することができます。

セットアップに失敗した場合

システムのセットアップに失敗した場合は、ビープ音をらすことでユーザーに異常を知らせます(自動的に電源がOFF(POWERランプ消灯)になります)。正常にセットアップが完了しなかった場合は、初期導入設定用ディスクに書き出されるログファイル「logging.txt」の内容をコンピュータの「メモ帳」などのツールを使って確認し、再度初期導入設定ツールを使用して初期導入設定用ディスクを作成し直してください。

<主なログの出力例>

■ 「Info: completed.」

→ 正常にセットアップが完了した場合に表示されます。

■ 「Info: quitting with no change.」

→ 初期導入設定ツールを使って再度作成せずに、一度セットアップに使用した初期導入設定用ディスクを再使用した場合に表示されます(設定は反映されません)。

■ 「Cannot get authentication: root」

→ 初期導入設定用ディスク中のパスワードの指定に誤りがある場合に表示されます。

■ 「Error: invalid file: /mnt/floppy/linux.aut」

→ 初期導入設定用ディスク中のパスワード情報を格納したファイル(linux.aut)が正しく作成されなかった場合に表示されます。

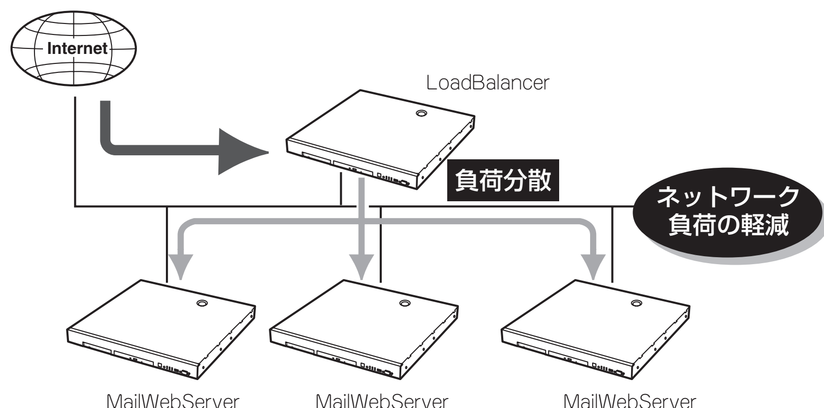
■ 「Error: cannot open: /mnt/floppy/linux.aut」

→ 初期導入設定用ディスク中のパスワード情報を格納したファイル(linux.aut)が正しく作成されなかった場合に表示されます。

セットアップや運用時のトラブルについての対処を222ページで詳しく説明しています。

ロードバランスクラスタ構成のセットアップ

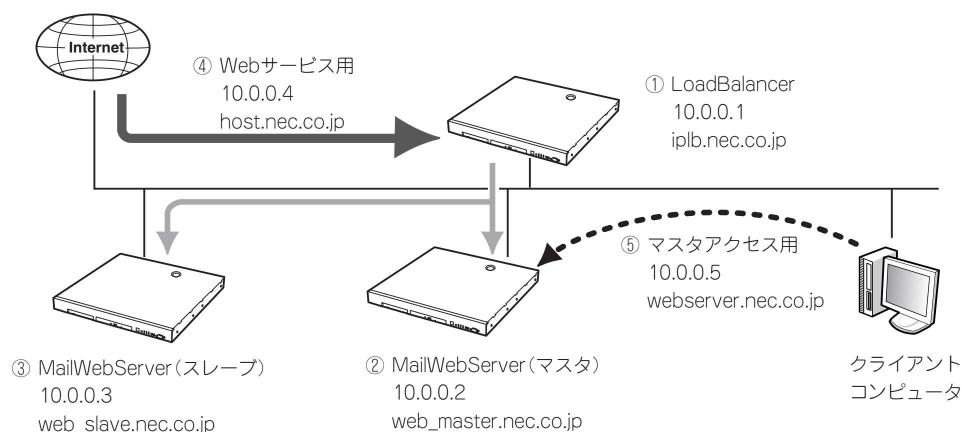
負荷の高いWebサイトでは、MailWebServerを複数台と別売のExpress5800/LoadBalancerを組み合わせることで、複数のMailWebServerに負荷を分散し、レスポンスを高めるロードバランスクラスタ環境を構築することができます。





ロードバランス構成でセットアップした場合は、メールサーバ機能は使用できません。メールサーバを構築する場合は、スタンドアロンまたはフェイルオーバクラスタ構成で運用してください。

ここでは2台のサーバによるロードバランスクラスタ構成のセットアップ方法を解説します。ネットワーク構成と、それぞれのサーバに割り当てるIPアドレスとホスト名は次の図のようになっていると仮定します。



① Express5800/LoadBalancerに割り当てるIPアドレスとホスト名。

② MailWebServer（マスタ）に割り当てるIPアドレスとホスト名。

③ MailWebServer（スレーブ）に割り当てるIPアドレスとホスト名。
ロードバランスクラスタ構成では、複数あるMailWebServerのいずれか一台を「マスタサーバ」とする必要があります。Webコンテンツの更新、設定の変更などはマスタサーバに対して行われ、残りのサーバにはマスタサーバの情報が自動でコピーされます（ミラーリング）。コピーされる側のサーバをすべて「スレーブサーバ」と呼びます。マスタサーバがダウンした際は、任意のスレーブサーバをマスタサーバとして再設定することができます。

④ Webサービスを提供するためのIPアドレスとホスト名。
インターネットからアクセスするためのIPアドレスです。実際には、仮想ドメイン作成時に割り当てます。

⑤ マスタサーバのManagement Console にアクセスするためのIPアドレスとホスト名。
このホスト名を用いると、各サーバの実ホスト名に関わらず常にマスタサーバのManagement Console にアクセスすることができます。

まとめると以下のようになります。これらのIPアドレスとホスト名は、あらかじめDNS に登録しておく必要があります。ここではすでに登録してあるものとして解説します。

使用マシン	IPアドレス	ホスト名
① LoadBalancer	10.0.0.1	iplb.nec.co.jp
② MailWebServer（マスタ）	10.0.0.2	web_master.nec.co.jp
③ MailWebServer（スレーブ）	10.0.0.3	web_slave.nec.co.jp
④ Webサービス（仮想ドメイン）用	10.0.0.4	host.nec.co.jp
⑤ マスタアクセス用	10.0.0.5	webserver.nec.co.jp

（注意） その他に、Management Consoleを使用するクライアントコンピュータ（上記とは別のIPアドレスを持つ）がネットワークに接続されている必要があります。

セットアップ

<ロードバランスクラスタ構成のセットアップ例>

以下の手順でManagement Consoleから設定します。操作はシステム管理者でアクセスしてください。



実際にセットアップを行う場合は、必ず運用するネットワーク構成と同じ状態になるよう各装置を接続した後に、セットアップを開始してください。また、設定を行うすべてのシステムが起動した状態でセットアップを行い、仮想ドメインの追加はクラスタ構成のセットアップが完了した後に行ってください。

1. MailWebServer(2台)をロードバランス構成としてセットアップする。

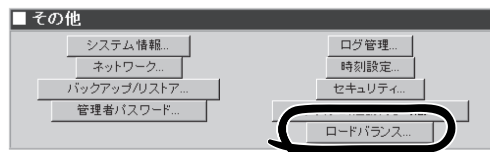
   46ページを参照して、以下の情報でセットアップしてください。

設定項目	MailWebServer（マスタ）	MailWebServer（スレーブ）
パスワード	同一のパスワード	
ホスト名	web_master.nec.co.jp	web_slave.nec.co.jp
IPアドレス	10.0.0.2	10.0.0.3
構成	Webサーバでのロードバランス構成	

重要

ロードバランスの対象となる装置は、同じシステム管理者パスワードを設定します。

2. web_master.nec.co.jpのManagement Consoleにアクセスし、[システム]から[ロードバランス]ボタンをクリックする。



3. ［■基本設定］内の［追加］ボタンをクリックする。

4. ［■ミラーリングサーバの追加］で以下の情報を入力し、［設定］ボタンをクリックする。

   サーバ名: web_master.nec.co.jp
   IPアドレス: 10.0.0.2

5. さらに［追加］ボタンをクリックして以下の情報を入力し、［設定］ボタンをクリックする。

   サーバ名: web_slave.nec.co.jp
   IPアドレス: 10.0.0.3

6. ミラーリング間隔を設定する。

   ここでは「10」とします。

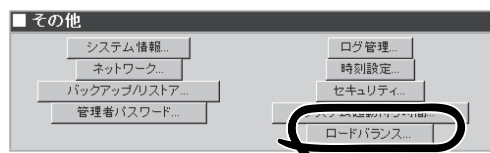
7. 「ホスト名（FQDN）」欄にマスタサーバのManagement Consoleにアクセスするためのホスト名を入力し、［設定］ボタンをクリックする。

   webserver.nec.co.jp

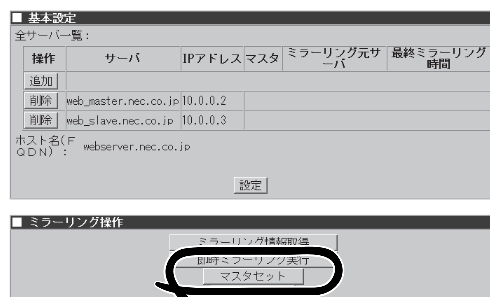
8. web_slave.nec.co.jpのManagement Consoleにアクセスし、手順2～7と同じ操作をする。

   3台以上のMailWebServerのクラスタ構成でセットアップする場合は、すべてのサーバでこれと同様の操作を行います。

9. web_master.nec.co.jpのManagement Consoleにアクセスし、[システム]から[ロードバランス]ボタンをクリックする。



10. [■ミラーリング操作]内の[マスタセット]ボタンをクリックする。



11. 確認メッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックする。

web_master.nec.co.jpがマスタサーバにセットされます。



12. web_slave.nec.co.jpのManagement Consoleにアクセスし、[システム]から[システムの再起動]ボタンをクリックする。

3台以上のMailWebServerをクラスタ構成でセットアップする場合は、すべてのスレーブサーバを再起動します。

13. Express5800/LoadBalancerで必要な設定をする。

詳細はLoadBalancerのマニュアルを参照してください。

14. LoadBalancerとすべてのサーバを再起動する。

ロードバランスクラスタ構成のセットアップがすべて正常に終了したら、次のURLでマスタサーバ(web_master.nec.co.jp)のManagement Consoleにアクセスできます。

http://webserver.nec.co.jp:50090/



クラスタ構成では、仮想ドメインを追加して運用する必要があります。[ドメイン情報]から[追加]をクリックして、以下の情報でドメインを追加します。
この情報は、自動でスレーブサーバ(web_slave.nec.co.jp)にコピーされます。

ドメイン名: www.nec.co.jp
IPアドレス: 10.0.0.4

ドメイン情報追加

ドメイン情報 > ドメイン情報追加　[戻る] [ヘルプ]

■ 仮想ドメイン情報追加

ドメイン名：	host.nec.co.jp
グループ名：	nec
IPアドレス：	10.0.0.4
WEBサーバ別名：	www.nec.co.jp
説明：	
サービス：	☑ TELNET/SSHの使用を許可する ☑ FTPの使用を許可する ☑ anonymous FTPの使用を許可する
ドメイン登録ユーザ最大数：	300
WEB使用ユーザ最大数：	0
ドメイン使用ユーザ向けディスク最大容量(MB)：	10

[設定]

ここで、ミラーリング(マスタサーバからスレーブサーバに自動コピー)される項目と、されない項目があります。以下に一覧を示します。ミラーリングされない項目に関しては、マスタとスレーブで個々に設定してください。

- ミラーリングされる項目:　ドメイン追加情報
  ユーザアカウント
  サービスーWebサーバーMIMEタイプ
  Management Console
- ミラーリングされない項目:　ネットワーク
  セキュリティ
  サービスの起動終了
  サービスーWebサーバー基本設定
  サービスーネームサーバ(named)
  サービスーファイル転送(ftpd)
  サービスーUNIXファイル共有(nfsd)
  サービスーWindowsファイル共有(smbd)
  サービスー時刻調整(ntpd)
  サービスーネットワーク管理エージェント(snmpd)

これで以下のURLでWebサービスを提供できる状態になります。

http://www.nec.co.jp/



- **ロードバランス構成では、仮想ドメインで運用を行ってください。**
- **初期導入時にスタンドアロン構成でセットアップした本装置をロードバランス構成へ移行することはできません。**
- **設定項目の詳細については、画面上の[ヘルプ]をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。**
- **マスタサーバが稼動している状態で、スレーブサーバを追加する場合、各サーバの設定後にスレーブサーバを再起動することで、マスタサーバの情報をスレーブサーバに反映することができます。**
- **ミラーリングが開始されると、Management Consoleの動作が遅くなることがあります。**
- **メニューの「Management Console」の設定を変更した場合は、必ず各スレーブサーバのManagement Console画面で[設定]ボタンをクリックしてください。**

● **マスタサーバダウン時に、スレーブサーバをマスタにセットする方法**

マスタサーバがダウンした時は、任意のスレーブサーバのManagement Consoleにアクセスし、[システム]→[ロードバランス]で、[マスタセット]ボタンをクリックして新マスタサーバにセットしてください。

● **ダウンしたマスタサーバの復帰方法**

任意のスレーブサーバを新マスタサーバにセットした後、ダウンしたマスタサーバを再び起動してください。自動的にスレーブサーバとして復帰します。

● **ロードバランス利用時のftpのアップロード方法**

LoadBalancer側であらかじめロードバランシングの対象となるIPアドレス(Webサービス用のIPアドレス)のftpポート(21)に対して、通信を必ずマスタサーバへ転送する設定を行ってください。

上記設定が完了した後、FTPサーバを利用する際は、ロードバランシングの対象となるIPアドレスを指定するとマスタサーバへと接続されますので、マスタサーバに対してftpでのアップロードを行ってください。

なお、LoadBalancerへの設定方法の詳細につきましては、LoadBalancerのマニュアルをご覧ください。

● **ミラーリング利用時の注意点**

マスタとなっているサーバからスレーブとなっているサーバに対して、データのミラーリングを行うことができます。

ミラーリングは一定周期で行われます。リアルタイムには更新されません。Management Consoleの[システム]→[ロードバランス]の項目から、ミラーリングの間隔を設定できます。また、[即時ミラーリング実行]ボタンをクリックすることにより、ミラーリングを実行する機能を持ちます。

■ 基本設定

全サーバ一覧：

操作	サーバ	IPアドレス	マスタ	ミラーリング元サーバ	最終ミラーリング時間
追加					
削除	web_master.nec.co.jp	10.0.0.2			
削除	web_slave.nec.co.jp	10.0.0.3			

ミラーリング間隔： 10

ホスト名(FQDN)： webserver.nec.co.jp

設定

■ ミラーリング操作

ミラーリング情報取得

即時ミラーリング実行

マスタセット

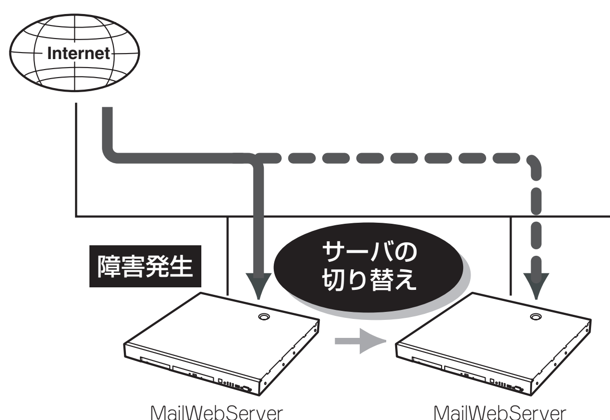
マスタ解除

フェイルオーバクラスタ構成のセットアップ

MailWebServerを複数台用意し、CLUSTERPRO Lite! for Linuxと組み合わせて切り替えミラーディスクを構築することで、通常動作するサーバに障害が発生してダウンしても、待機中のサーバが自動的に処理を引き継ぐ(フェイルオーバ)ようなクラスタ構成を構築することができます。

CLUSTERPRO Lite! for Linuxをインストールするには、別途「Express5800/MailWebServer CLUSTERPRO Lite! 導入キット」が必要です。

クラスタ構成については、ホスト名やIPアドレスの割り当て方法に注意事項があります。本章では概要を説明します。セットアップの前には必ず「CLUSTERPRO システム構築ガイド アプライアンスサーバ編とトレッキングツール データミラー編」を必ず参照してください。





「CLUSTERPROシステム構築ガイド*1」の最新版は以下のURLに掲載されています。システム構築前に最新版を取り寄せてください。
インターネットホームページ「それいけ!58宝船」の[100シリーズメニュー]→[Linux関連情報]よりダウンロードできます。

NECインターネット内でのご利用

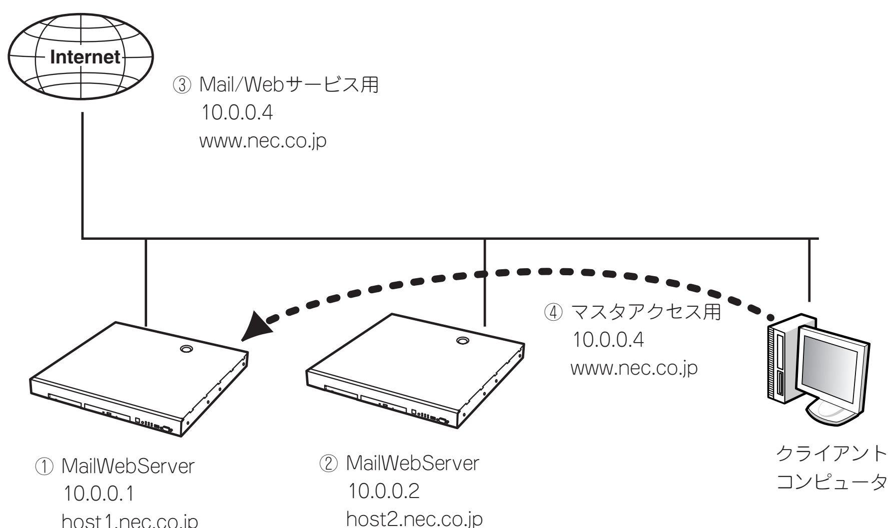
http://soreike.wsd.mt.nec.co.jp/

NECインターネット外でのご利用*2

http://www.soreike.express.nec.co.jp/

*1 「CLUSTERPROシステム構築ガイド」の入手を希望される場合はお買い求めの販売店へお問い合わせください。
*2 販売店からのご利用には事前の登録が必要になります。

ここでは代表的なフェイルオーバクラスタ構成について、環境の構築方法や設定方法を解説します。ネットワーク構成と、それぞれのサーバに割り当てるIPアドレスとホスト名は次の図のようになっていると仮定します。



① MailWebServerに割り当てるIPアドレスとホスト名。

② MailWebServerに割り当てるIPアドレスとホスト名。

③ Mail/Webサービスを提供するためのIPアドレスとホスト名。
IPアドレスはCLUSTERPRO簡易構築ディスク(フロッピーディスク)作成時に割り当てたフローティングIPを仮想ドメイン作成時に割り当てます。

④ ①のManagement ConsoleにアクセスするためのIPアドレスとホスト名。
このホスト名を用いると、各サーバの実ホスト名に関わらず常に①のManagement Consoleにアクセスすることができます。

まとめると以下のようになります。これらのIPアドレスとホスト名は、あらかじめDNSに登録しておく必要があります。ここではすでに登録してあるものとして解説します。

使用マシン	IPアドレス	ホスト名
① MailWebServer	10.0.0.1	host1.nec.co.jp
② MailWebServer	10.0.0.2	host2.nec.co.jp
③ Mail/Webサービス（仮想ドメイン）用	10.0.0.4	www.nec.co.jp
④ マスタアクセス用	10.0.0.4	www.nec.co.jp

（注意） その他に、Management Consoleを使用するクライアントコンピュータ（上記とは別のIPアドレスを持つ）がネットワークに接続されている必要があります。

<フェイルオーバクラスタ構成のセットアップ例>

以下の手順でManagement Consoleから設定します。操作はシステム管理者でアクセスしてください。



実際にセットアップを行う場合は、必ず運用するネットワーク構成と同じ状態になるよう各装置を接続した後に、セットアップを開始してください。また、設定を行うすべてのシステムが起動した状態でセットアップを行い、仮想ドメインの追加はクラスタ構成のセットアップが完了した後に行ってください。

なお、システムの再インストールからCLUSTERPRO Lite! のインストールまでは完了しているものとして解説します。システムの再インストールの詳細は、「Express5800/MailWebServer CLUSTERPRO Lite! 導入キットVer1.0」を参照してください。

2台のサーバの初期導入設定用ディスクは、フェイルオーバ構成としてセットアップします。

設定項目	MailWebServer	MailWebServer
パスワード	同一のパスワード	
ホスト名(FQDN)	host1.nec.co.jp	host2.nec.co.jp
IPアドレス	10.0.0.1	10.0.0.2
構成	Webサーバ/Mailサーバでのフェイルオーバクラスタ構成	



- **フェイルオーバの対象となる各装置には、同じシステム管理者パスワードを設定してください。**
- **2枚目のネットワークインタフェースに未使用のローカルIPアドレス(CLUSTERPROが内部で使用するIPアドレス)を設定します。詳しくは、「CLUSTERPRO システム構築ガイド アプライアンスサーバ編」を参照してください。**
- **ホスト名(ドメイン名を含まない)は15文字以内に設定してください。**
- **プライマリネームサーバに自分自身を設定した場合、切り替えミラーディスクの構築に失敗する可能性があります。別にDNSサーバを設けることをお勧めします。**

1. host1.nec.co.jpのManegement Consoleに「CLUSTERPRO簡易構築ディスク(FD)」(「CLSUTERPROシステム構築ガイド アプライアンスサーバ編とトレッキングツール ミラーディスク編」を参照)をセットして、[CLUSTERPRO]から[クラスタ構成管理]を選択し、[クラスタ生成]ボタンをクリックする。

   CLUSTERPRO簡易構築ディスク(FD)作成でミラーパーティション情報の生成は、パーティションデバイス名「/dev/hdb2、マウントポイント「/nmt/mirror1」で入力してください。

■ クラスタ生成
クラスタ生成FDの情報に従ってクラスタを新規に生成します。
クラスタ生成FDをFDドライブへセットしてからクラスタ生成ボタンを押してください。
クラスタ生成

■ クラスタ構成変更
クラスタ生成FDの情報に従ってクラスタの構成を変更します。
クラスタ生成FDをFDドライブへセットしてからクラスタ状態変更ボタンを押してください。
クラスタ構成変更

■ クラスタ情報バックアップ
現在のクラスタの構成からクラスタ情報FDを生成します。
WindowsNTでフォーマット済FDをFDドライブへセットしてからバックアップボタンを押してください。
バックアップ

2. host1.nec.co.jpからCLUSTERPRO簡易構築ディスク(FD)を取り出して、Management Consoleの[システム]から[システム再起動]ボタンをクリックしてマシンを再起動する。

3. 再起動の完了を確認後、host2.nec.co.jpのManagement Consoleで同様にマシンを再起動する。

   再起動の確認はManagement Consoleの[CLUSTERPRO]から[クラスタ状態監視]を選択して状態監視用のコンテンツが表示されることを目安にして判断してください。

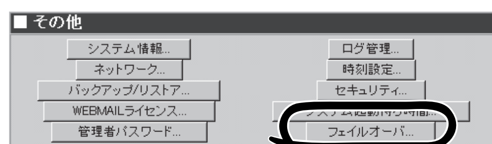
4. CLUSTERPROマネージャでクラスタ情報を登録する。

   「CLSUTERPROシステム構築ガイド アプライアンスサーバ編」を参照してください。
   この時CLUSTERPROマネージャで切り換えミラーディスクの再構築が行われている可能性がありますが、そのまま次の手順に進んで構いません。

5. host1.nec.co.jpのManegement Console でクラスタ関連を設定する。

   CLUSTERPROマネージャでフェイルオーバグループが存在している必要があります。

   a. [システム]から[フェイルオーバ]ボタンをクリックする。



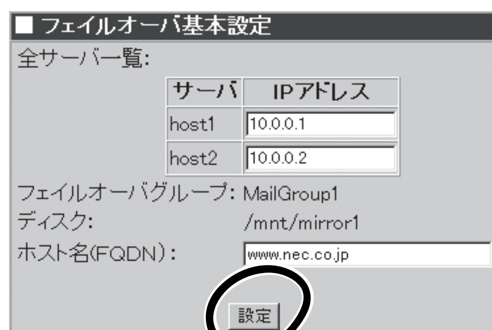
   b. IPアドレス欄に2台の本装置のホスト名に対するIPアドレス(host1: 10.0.0.1、host2: 10.0.0.2)を入力する。

   重要

   初期導入設定用ディスクで設定したものと同じIPアドレスを入力してください。

   c. ホスト名(FQDN)にCLUSTERPRO簡易構築ディスク(FD)で設定した仮想IPアドレスに対応する仮想ホスト名をFQDN(www.nec.co.jp)で入力する。

   d. [設定]ボタンをクリックする。



6. CLUSTERPROマネージャで切り換えミラーディスクの再構築が完了後、フェイルオーバグループをhost2.nec.co.jpに移動する。

   CLUSTERPROマネージャの操作方法については「CLSUTERPROシステム構築ガイド GUI編」を参照してください。

7. host2.nec.co.jpで手順5と同じ操作をする。

8. CLUSTERPROマネージャで、フェイルオーバグループをhost1.nec.co.jpに移動する(元に戻す)。

9. 仮想ドメインを作成する。

   仮想ホスト名(www.nec.co.jp)のManegement Consoleにアクセスできます。クラスタ構成では、仮想ドメインを追加して運用する必要があります。[ドメイン情報]から[追加]ボタンをクリックして、以下の情報でドメインを追加します。

   ドメイン名：nec.co.jp
   IPアドレス：10.0.0.4
   WEBサーバ名：www.nec.co.jp

   詳細な手順は「ドメイン情報」を参照してください。

■ 仮想ドメイン情報追加

ドメイン名:	nec.co.jp
グループ名:	nec
IPアドレス:	10.0.0.4
WEBサーバ名:	www.nec.co.jp
【WEB関連】	
WEBアクセスポート番号:	00
WEBアクセスポート番号(SSL使用時):	443
WEB使用ユーザ最大数:	0
【MAIL関連】	
MAIL(一人分)格納ディスク容量(MB):	2
Vacation機能:	☑ メールの自動返信を許可する
【サービス関連】	
☐ TELNET/SSHの使用を許可する	
☑ FTPの使用を許可する	
☐ anonymous FTPの使用を許可する	
【その他】	
ドメイン登録ユーザ最大数:	0
ドメイン使用ユーザ向けディスク最大容量(MB):	1000
説明:	

設定

これで、以下のURLでWebサービスを提供できる状態となります。

http://www.nec.co.jp/

また、以下の操作を行うことでクライアントからのメールの送受信が可能となります。
仮想ホスト名(www.nec.co.jp)のManegement Consoleにアクセスし、[ドメイン情報]から[管理画面]ボタンでドメイン管理者画面に移動し、ユーザを追加します。そしてメールクライアントで以下の設定をすることで、メールの送受信(ユーザ名@www.nec.co.jp)が可能となります。

- SMTPサーバ: 仮想ホストのFQDN(www.nec.co.jp)
- POP3/IMAP4サーバ: 仮想ホストのFQDN(www.nec.co.jp)
- WEBMAILのURL: http://www.nec.co.jp:10080/webmail/
  https://www.nec.co.jp:10443/webmail/

ここで、フェイルオーバされる項目とされない項目があります。以下に一覧を示します。フェイルオーバされない項目に関しては、各サーバで個々に設定してください。なお、Management Consoleが操作可能な項目で以下にない場合は、フェイルオーバされない項目になります。

- フェイルオーバされる項目: ドメイン追加情報
  ユーザアカウント
  サービスーメールサーバ(sendmail/popd/imapd/mail-httpd)
  サービスーWebサーバ(httpd)
  Management Console
- フェイルオーバされない項目: ネットワーク
  セキュリティ
  サービスの起動終了
  サービスーネームサーバ(named)
  サービスーファイル転送(ftpd)
  サービスーUNIXファイル共有(nfsd)
  サービスーWindowsファイル共有(smbd)
  サービスー時刻調整(ntpd)
  サービスーネットワーク管理エージェント(snmpd)



- **フェイルオーバクラスタ構成では、仮想ドメインで運用してください。**
- **設定項目の詳細については、画面上の[ヘルプ]をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。**

ESMPRO/ServerAgentのセットアップ

ESMPRO/ServerAgentは出荷時にインストール済みですが、固有の設定がされていません。5章を参照してセットアップしてください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、添付の「保守・管理ツールCD-ROM」にあるオフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをしてください。



保守・管理ツールCD-ROMからシステムを起動して操作します。保守・管理ツールCD-ROMから起動させるためには、事前にセットアップが必要です。4章を参照して準備してください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 本体に添付の「保守・管理ツールCD-ROM」から「オフライン保守ユーティリティ」を起動する。

   「保守・管理ツールCD-ROM」の使い方については4章を参照してください。
3. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。

   以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

続いて管理コンピュータに本装置を監視・管理するアプリケーションをインストールします。次ページを参照してください。

セキュリティパッチの適用

最新のセキュリティパッチは、以下のURLよりダウンロード可能です。

http://www.express.nec.co.jp/care/index.asp

定期的に参照し、適用することをお勧めします。

管理コンピュータのセットアップ

本装置をネットワーク上のコンピュータから管理・監視するためのアプリケーションとして、「ESMPRO/ServerManager」と「Management Workstation Application（MWA）」が用意されています。
これらのアプリケーションを管理コンピュータにインストールすることによりシステムの管理が容易になるだけでなく、システム全体の信頼性を向上することができます。

ESMPRO/ServerManagerのインストールについては5章を参照してセットアップしてください。

MWAのインストールについては4章、または保守・管理ツールCD-ROM内のオンラインドキュメントを参照してください。

再セットアップ

再セットアップとは、システムクラッシュなどの原因でシステムが起動できなくなった場合などに、添付の「バックアップCD-ROM」を使ってハードディスクを出荷時の状態に戻してシステムを起動できるようにするものです。以下の手順で再セットアップをしてください。

保守用パーティションの作成

「保守用パーティション」とは、装置の維持・管理を行うためのユーティリティを格納するためのパーティションで、16MB程度の領域を内蔵ハードディスク上へ確保します。
システムの信頼性を向上するためにも保守用パーティションを作成することをお勧めします。
保守用パーティションは、添付の「保守・管理ツールCD-ROM」を使って作成します。詳しくは第4章を参照してください。

保守用パーティションを作成するプロセスで保守用パーティションへ自動的にインストールされるユーティリティは、「システム診断ユーティリティ」と「オフライン保守ユーティリティ」です。

再セットアップモードへの変更

本装置は、システムの起動が正常に行われたかどうか常に監視をし、起動に失敗した場合はシステムの再起動を試みる機能が備わっています。再インストール中は、システム起動監視機能を無効にする必要があります。
本機能の有効／無効は、添付の「保守・管理ツールCD-ROM」を使って変更します。詳しくは、4章を参照してください。



再セットアップが完了したら、システム起動監視機能を有効に戻してください。

システムの再インストール



再インストールを行うと、サーバ内の全データが消去され、出荷時の状態に戻ります。必要なデータがサーバ内に残っている場合、データをバックアップしてから再インストールを実行してください。

再インストールには、本体添付のバックアップCD-ROMとバックアップCD-ROM用インストールディスクが必要です。

「バックアップCD-ROM用インストールディスク」を3.5インチフロッピーディスクドライブに、「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブにそれぞれ挿入し、POWERスイッチを押して電源をONにします。



このとき、前面のシリアルポート2（COM2）に管理コンピュータを19,200bpsの転送速度で接続すると、管理コンピュータからログを参照することができます。

しばらくすると「バックアップCD-ROM用インストールディスク」から設定情報を読み取り、自動的にインストールを実行します。



このとき、確認等は一切行われずにインストール作業が開始されるため、十分注意してください。

約30分程度でインストールが完了します。インストールが完了したら、CD-ROMが自動的にイジェクトされます。CD-ROMとフロッピーディスクの両方をドライブから取り出してください。

40分以上待っても、CD-ROMがイジェクトされず、CD-ROMへのアクセスも行われていない場合は再インストールに失敗している可能性があります。リセットして、CD-ROM/フロッピーディスクをセットし直して再度インストールを試みてください。それでもインストールできない場合は、保守サービス会社、またはお買い上げの販売店までご連絡ください。

初期導入設定用ディスクの作成

前述の「初期導入設定用ディスクの作成」を参照してください。すでに初期導入設定用ディスクを作成している場合は、パスワード情報の設定のみ再度設定し直してください。ただし、設定内容を変えたいときは、新たに初期導入用設定ディスクを作り直してください。

システムのセットアップ

前述の「システムのセットアップ」を参照してください。

ロードバランスクラスタ構成のセットアップ

前述の「ロードバランスクラスタ構成のセットアップ」を参照してください。

フェイルオーバラスタ構成のセットアップ

前述の「フェイルオーバクラスタ構成のセットアップ」を参照してください。

ESMPRO/ServerAgentのセットアップ

「システムの再インストール」でESMPRO/ServerAgentは自動的にインストールされますが、固有の設定がされていません。5章を参照してセットアップしてください。

セキュリティパッチの適用

最新のセキュリティパッチは、以下のURLよりダウンロード可能です。

http://www.express.nec.co.jp/care/index.asp

定期的に参照し、適用することをお勧めします。